



未来に響く文化の鼓動

札幌文団協

札幌文化

団体協議会

ニュース

第70号

- 札幌文団協の目的
札幌における各文化団体の連絡協調をはかり、文化の発展をめざします
- 札幌市民憲章 5章
世界とむすぶ高い文化のまちにしましょう



▲第43回文化交流パーティーさっぽろで、フィナーレを飾った北海道二期会 佐々木アンリさん(ソプラノ)

◀来賓として参加された秋元克広札幌市長

2年ぶりに開催に漕ぎつけた令和4年の文化交流パーティーは、久々の歓談の機会を待ちわびた会員の笑顔がテーブルを囲みました。コロナ第6波の直前というタイミングでしたが、会場となったホテル側の協力を含め、出来る限りの感染予防対策を講じて無事に開催することができました。

当日は秋元克広札幌市長も出席され「よくぞ開催し、そして参加してくださった」と、困難に屈しない文団協の気概と工夫にエールを送ってくださいました。

昨年は札幌文団協フェスティバルが50回の節目を迎えましたが、祝賀的な行事は行うことができませんでした。そのため、初春の祝賀に併せてフェスティバル50回を共に祝う場としても、一層の華やきがパーティー会場に満ち溢れていました。

終わりが見えないコロナ禍ですが、この3年間を振り返ると、さまざまな場面で会員の皆さまのご協力によって難局を乗り越えることができました。フェスティバルはもちろん、札幌文団協が主管する道文団協の事業を含めて、すべての事業を中止することなく実施できたことがそれを物語っています。

ウィズコロナの社会の中で、芸術文化活動をどう展開していくか。さらには全国的な動きとして中学校の部活動の地域移行が検討されており、芸術文化活動を取り巻く環境にも様々な動きが感じられます。

厳しい時代だからこそ、芸術文化を身近に。引き続き会員の皆さまの一層のお力添えを期待しております。

第44回文化交流パーティーさっぽろ

日時／令和5年1月9日(成人の日)

正午開始

会場／京王プラザホテル札幌

写真で振り返る

第51回 ぶんだんきょうフェスティバル

夏の札幌をアートで彩る「第51回SAPPOROぶんだんきょうフェスティバル」が無事開催され、今年もたくさんの方にご来場いただきました。意欲に満ち溢れた作品の数々を、写真で振り返ります。

展示部門

8月19日(金)～21日(日)
札幌文化芸術交流センター SCARTS
入場者数 2,789人



芸術選賞 大石 俊久(北海道陶芸協会)



体験教室

8月19日(金)～21日(日)
札幌文化芸術交流センター SCARTS
入場者数 356人



次回、第52回SAPPORO
ぶんだんきょうフェスティバルは、

舞台部門

◆洋舞 / 7月2日(日)夜、カナモトホール(札幌市民ホール)
◆邦舞 / 7月3日(月)昼、カナモトホール(札幌市民ホール)

舞台部門

7月31日(日)和の部・洋の部
教育文化会館 大ホール
入場者数 886人



芸術選賞 菊乃 雅巳(正派菊乃流菊乃会)



芸術選賞 郷 翠(札幌舞踊会)



下記の日程および会場で開催いたします。

展示部門

◆展示・いけ花・お茶席／8月18日(金)～20日(日)、札幌文化芸術交流センター I S C A R T S

今新たな変化の時を迎えて…

札幌文化団体協議会
会長 下沢 敏也



今年51回を数えた札幌文芸フェスティバル。展示部門は札幌文化芸術交流センター I S C A R T S、舞台部門は札幌市教育文化会館大ホールにて華々しく開催され、共に毎年大勢の市民の目を楽しませていきます。

札幌文協は文化団体として長い歴史を重ねてきて、今この時代の変化とともに何が出来るかを問われているのかもしれない。ここ数年コロナ禍を過ごして感じることは、やはり「文化力」。人々の心に大きな変化があり、改めて文化の必要性に気が付き始めたのではないかと推察します。

一口に文化と言っても様々なことが存在しますが、生きるものにとつてかけがえのないものであることは、間違いありません。先人たちが築きあげ、生きていくため又生活をしていく上での知恵や道具、そして何より大切なのは、人々が寄り添い互いに助け合うことが本当の意味での文化であり、そうあり続けなければと改めて感じています。

「差別や偏見を無くすのは文化力。芸術・文化は人種の枠や概念を超えられる力があり、多様なものに対する大きな力になる」という言葉を思い出しました。

今後も札幌文協としてやるべきことを見据え、みなさんと共に歩んで行きたいと存じます。

令和4年度
札幌文化団体協議会文化賞決定

【文化賞】
内田 弘
うちだ ひろし



(短歌)

生年月日／昭和18年2月3日
主な業績／昭和39年より短歌の作歌を始める。昭和62年に第1歌集「氷柱」を出版し、第3歌集「街の音」では北海道新聞短歌賞および日本歌人クラブ賞を受賞。以来、作歌を続けて現在第5歌集「漂白の街」が出版されている。令和元年には短歌評論集「現代の写実」を出版。平成20年に日本歌人クラブ北海道ブロック長、平成22年には北海道歌人协会会长に就任した。北海道文化団体協議会および札幌文化団体協議会常任理事として、北海道と札幌市の文化活動に貢献。令和元年に北海道文化団体協議会芸術賞、令和3年に北海道文化賞を受賞。令和4年度文化庁地域文化功労賞表彰受賞。同人誌「トワ・フルール」発行人。札幌市民芸術祭実行副委員長。北海道文学館参与。

【文化賞】
奥村 素紅
おくむら そこう



(書)

生年月日／昭和13年7月4日
主な業績／国際書道協合理事、書道研究心華社副会長、国際現代書道展理事、北海道書道連盟参与等要職を兼任して、書道振興発展において現在も最前線に立つ。また、書道研究「抱墨云」を主宰し、書の古筆研究、並びに指導に専念。これまでに文部科学大臣奨励賞および大臣賞、中華人民共和国駐日本国大使館賞、青沼秀鳳記念賞等、受賞多数。書作は、かな、漢字、大字書、淡墨など専門分野も広く、また純度も高いことから今もなお多くの鑑賞者

を魅了しており、書道学習者に与える影響力も大きい。

【文化功労賞】
織田 光穂
おだ みつほ



(文化活動)

生年月日／昭和8年3月2日
主な業績／平成11年の清田区文化団体協議会設立以来23年間、会長職を歴任しながら、日本の伝統文化に加え洋舞や絵画、茶道、華道など多方面にわたり、区民に芸能活動の成果を発表する場を提供し、支えてきた。さらには施設等への慰問や、清田区民センターの運営委員として交通安全運動推進委員、指導員および保護司として長きにわたり、清田区の発展に大きく貢献している。さらに札幌文化団体協議会副会長として、札幌市の文化振興への協力から平成19年札幌文化団体協議会文化賞を受賞。

【文化奨励賞】
茂呂 剛伸
もろ こうしん



(音楽)

生年月日／昭和53年5月5日
主な業績／平成12年からガーナ共和国に移住して修行を積み、世界各都市で演奏活動が続けてきた。札幌大学名誉教授(詩人)原子修氏との出会いから縄文太鼓を自ら創案。縄文太鼓の演奏・制作を通じ、北海道から世界に向けて、縄文の芸術と文化の素晴らしさを発信している。平成25年には60年に一度行われる出雲大社の「平成の大遷宮」にて奉祝奉納演奏を行った。平成28年には、北海道立近代美術館で日本画岩橋英遠作「道産子追憶の巻」の

オマージュを公開作曲するなど、意欲的に活動している。また、フランスとも交流が深く、パリ日本文化会館等で多数演奏を披露している。現在、(一財)縄文芸術文化財団業務執行代表理事、札幌文化団体協議会理事。

【文化奨励賞】
島崎 朋園
しまざき ほうえん



(茶道)

年月日／昭和36年11月13日
主な業績／平成11年に煎茶道方円流に入門。故黒田翠園氏に師事し、平成20年に師範取得。自宅教室での後進の指導に加え、支部役員として活動し、平成30年に方円流札幌支部の第七代支部長に就任した。「互譲の心」「思いやり」をモットーに普及活動に心を尽くし、長年にわたるライラックまつりでの呈茶をはじめ、定山溪温泉もみじ茶会、夏休み子ども浴衣茶会、毎年の文団協フェスティバルにも積極的に参加して活動の幅を広げている。平成30年には日露文化芸術フェスティバル in 北海道での呈茶を通じて日本文化の紹介に貢献。今後の展望として、子供たちへの指導や海外との交流も視野に、日々の活動のなかで煎茶道の普及と発信に尽力を続けている。

各賞を受賞された方々

- 文化庁地域文化功労者表彰
内田 弘 (短歌)
- 北海道功労賞
雨貝 尚子 (音楽)
- 北海道文化賞
佐藤 武 (絵画)
- 札幌芸術賞
佐藤 武 (絵画)
- 札幌市社会教育功労者表彰
菊池 誓子 (剣詩舞・厚別区)
- 北海道功労賞
馬酔木 洋子 (詩吟・東区)
- 北海道文化団体協議会芸術賞
西田 陽二 (絵画)
- 北海道文化団体協議会賞
真下 教子 (バレエ)

新役員ご紹介

今年度の総会で承認された新役員は
下記の方々です。

理事 茂呂 剛伸（音楽）

理事 森下 博（洋舞）

（令和4年5月12日付け）

令和5年度 各区文団協の主な活動予定

※日程は変更になる場合があります。

[東 区] 東区民センター

6月18日 第36回東区文団協邦舞まつり

10月5日～8日

第46回オータムフェスティバル

「北 区」札幌サンプラザ

10月7日 第43回北区文団協フェスティバル

[西 区] ことにパトス

9月 西区文化フェスタ2023

[厚別区] 厚別区民センター

11月 第30回厚別ふれあいフェスティ
バル～舞台部門と展示部門の集
い

[清田区] 清田区民センター

7月 第21回芸能発表会

時期未定 老人福祉施設芸能訪問

[中央区] かでる2・7

5月20日～21日

第20回中央区文化団体協議会
芸術祭

[南 区] 南区民センター

9月又は10月頃

第7回FESTIVAL

[豊平区] 豊平区民センター

10月21日～22日

豊平区文化団体協議会第7回芸
術祭フェスティバル

[白石区] 白石区民センター

時期未定 第6回白石区文団協芸術祭フェ
スティバル

[手稲文化協会] 手稲区民センター

6月 チャリティ舞踊の集い

10月 手稲文化祭

団体会員の活動紹介

寒遊会書道

当会は幼年から大人まで、幅広い年齢層の方々が集う教室です。学童部は、全国の競書大会やこどもアール・ブリュッ ト北海道みらい作品展などに参加し、腕を磨いています。えんぴつ書き方と大筆、小筆等を幅広く学習します。

一般部では二つのコースがあります。実用中筆・小筆、ペン習字のコースは、持ち方、構え方などの基本から始まり、年賀状の書き方、のし紙用語、俳句などを題材とした楽しい講座です。もう一つのコースは、本格の書をめざし、希望者は読書法展などに出品します。展覧会制作は、短期間で行うので、集中して書作します。腕前もこの時期に上がるようです。しかし普段の稽古も大切で、肉筆手本による古典臨書は、筆力などの技術を高めるために必要な事です。

社中展である寒遊会展では、ほぼ全員が出品し、一年間の総まとめの発表の場として、楽しみながら制作しています。

会長 加藤 正叙



札幌文団協
会員イベント情報
Event information archive

当会ホームページで、会員皆様の活動状況をお知らせしています。左記のパナーを目印にぜひご覧ください。また、公式SNSも含め掲載依頼も随時受付しています。ご希望の方は事務局まで情報をお寄せください。

令和5年度 札幌文団協の事業予定

- 4月7日 常任理事会
フェスティバル実行委員会
【舞台部門】(札幌市資料館)
- 4月27日 役員会(札幌市資料館)
- 5月11日 総会(札幌市資料館)
- 5月18日 フェスティバル実行委員会
【展示部門】(札幌市資料館)
- 5月17日 第65回さっぽろライラックまつり
～28日(予定) (大通公園ほか)



- 7月2日 第52回札幌文団協フェスティバル
～3日 舞台部門(カナモトホール)
- 8月18日 第52回札幌文団協フェスティバル
～20日 展示/いけ花/お茶席部門
(札幌文化芸術交流センター
SCARTS 1階・2階)
〈同時開催〉
こどもアール・ブリュット
北海道みらい作品展
- 11月1日 第61回さっぽろ菊まつり(チカホ)
～3日(予定)
- 11月 区文団協会長・事務局長会議
- 1月8日 第45回文化交流パーティーさっぽろ

札幌市制100周年記念 第64回 さっぽろライラックまつりに参加

初夏の札幌を彩る、さっぽろライラックまつり。今回は5月18日～29日の日程で、3年ぶりとなる会場での開催となりました。

下沢敏也会長は実行委員長としてオープニングセレモニーで挨拶し、秋元札幌市長と共に、大通公園で記念植樹も行いました。また、会期中には「彩り字手紙教室」や、いけ花部門のみなさんによるライラック等を用いた作品も展示され、会場は大変にぎわいました。その他のイベントの様子はホームページでご覧いただけます。

<https://lilac.sapporo-fes.com/>



事務所移転および電話・FAX番号 変更のお知らせ

札幌市教育文化会館の改修工事に伴い、一時移転します。

《移転期間》令和5年1月11日～令和6年9月30日

《移転先住所》〒064-0931

札幌市中央区中島公園1番15号

札幌コンサートホールKitara

《TEL》011-211-8633 《FAX》011-211-8644

あ と が き

新型コロナウイルスの感染拡大は今もなお波を打っていますが、今年度予定されていた事業は皆様のご協力と感染対策の甲斐もあり、これまでのところすべて無事に開催できております。心より感謝申し上げます。

さて、当会事務所は年が明けるとまもなくKitaraにお引っ越しです。音楽はもちろん、豊かな自然とリスやキツネにも出会う中島公園の環境で新年をスタートできるのが、今から楽しみです。(Y.M)